

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 曽根 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

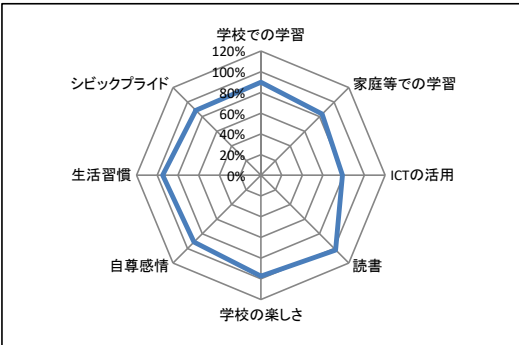
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「読むこと」の領域の正答率が特に低く、中でも、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかをみる問題においては、無回答率も高い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題。	下回っている
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかをみる問題。	

算数	全体的な傾向や特徴など	記述式の問題に対して、課題がある。特に、分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題において、無回答率も高くなっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題。	下回っている
	努力が必要な問題	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる問題。	

理科	全体的な傾向や特徴など	記述式の問題に対して、課題がある。特に、レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題において、無回答率も高くなっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題。	下回っている
	努力が必要な問題	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
・「友達関係に満足しているか」との問いに対して約93%の児童生徒が肯定的に回答しており、全国を上回っている。 ・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、宿題等でも活用できるように啓発していく。 ・「読書は好きですか」との問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が全国を上回っている。一方で、学校の授業時間以外で読書をする時間の割合は、全国を下回っている。このことから、学校外でも、読書に取り組む環境を整えることができるように、家庭学習に読書を位置付けたり、家庭に啓発したりすることが必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・今後も、主題研究を通してICTを効果的に活用する授業研究を全職員で行い、教師の授業力向上を図っていく。
- ・自分の考えをまとめる力や記述力を高めるため、書く活動の充実を図り、その都度フィードバックしていく。
- ・題意を読み取る力を育成するため、隙間時間にも読書活動を設定するなど、読解力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・対人スキルアップトレーニングや「にこにこボックス」の取組を通して、児童の自尊感情を高めていく。
- ・「学校だより」や「ほけんだより」、外部講師による講話等を活用し、規則正しい生活習慣の大切さを家庭に伝えるとともに、学級指導や保健指導、食育指導を通して、継続的に児童に指導していく。